

フォローアップミルクの使用と うつ伏せ寝の実態 ーアンケートによる分析ー

平成10年8月29～30日

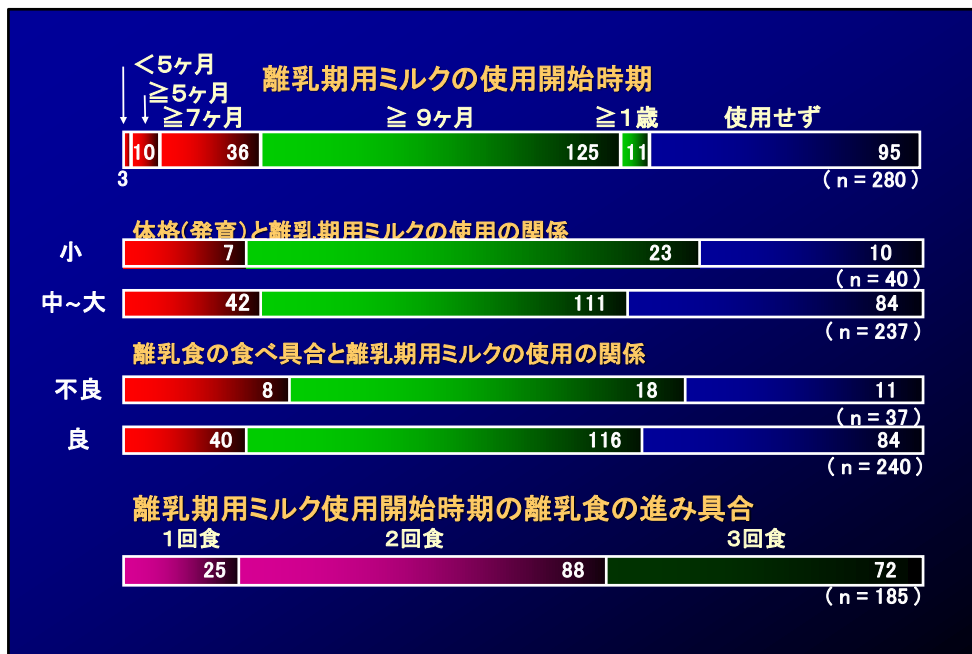
第8回日本外来小児科学研究会年次総会

シーホークホテル&リゾート(福岡)

わたなべ小児科医院
渡部礼二

健診をしていると、意外な事に気付く事があります。今回フォローアップミルクと寝かせ方に関してアンケートをとり、その分析をしましたので報告をいたします。

対象は 昨年1年間、当院に於いて母親が付き添ってきた、正常に発育している 1才以上で2才健診までの児を対象に重複を避け、そう混んでいない待ち時間を利用し、無記名で282名よりアンケートをとりました。



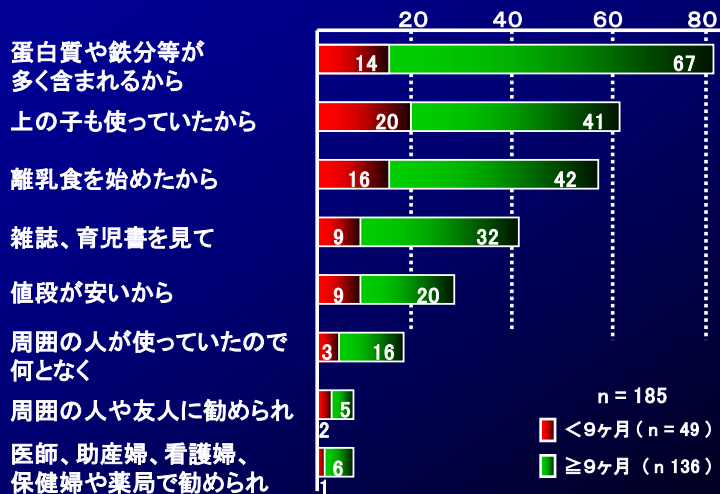
まず、フォローアップミルクに関し、約66%の児が使用し、その約28%が9ヶ月未満で使用していました。5ヶ月未満で使用している児もいました。

体格が小さい、離乳食が進まないといった因子はその使用及び早期使用の誘因ではなさそうです。

60%が2回食の段階でフォローアップミルクを与えられていました。

小児科学会の勧告から見ると、フォローアップミルクは63%の児に誤って使用されている事になります。

離乳期用ミルクを使った動機 (重複を含む)



使用した理由であります。広告で栄養があり、バランスが取れていてしかも値段が安いとなれば 高品質の育児用ミルクからフォローアップミルクに替えるのは 消費者、母親の女性心理として当たり前ではないでしょうか。

各種ミルクの蛋白、Fe、Ca濃度

	蛋白 (g/dl)		Fe (mg/dl)		Ca (mg/dl)	
	Me社	Mo社	Me社	Mo社	Me社	Mo社
70%調整粉乳	2.48	1.92	1.06	0.71	118	57
特殊調整粉乳	1.87	1.95	0.90	0.75	69	45
調整粉乳	1.71	1.69	0.84	0.78	53	47
離乳期用ミルク	2.38	2.31	1.10	1.00	95	78
牛乳	2.9	0.1		100		
母乳	1.1	0.2		25		

離乳期用ミルクの短所

- ① 蛋白濃度が高すぎる → 腎臓への溶質負荷
- ② 蛋白質の質の低下（予備消化なし） → アレルギーの問題
- ③ 銅、亜鉛等が添加されていない

小児科学会は8年前から「フォローアップミルクは 3回食になる9ヶ月を過ぎてから」と勧告しています。フォローアップミルクの不要論さえもあります。あくまで離乳後期、1歳以降における牛乳の代わりなのであります。

寝かせ方の設問

常に仰向きに寝かせた（ていた） 0 点

主に仰向きで、時にうつ伏せで寝かせた（ていた）1 点

仰向けになったりうつ伏せになったりである*.. 1.5 点

主にうつ伏せで、時に仰向きに寝かせた（ていた）2 点

常にうつ伏せで寝かせた（ていた） 3 点

（*：寝返りしての体位 .. 7ヶ月,現在）

時期： ①産科

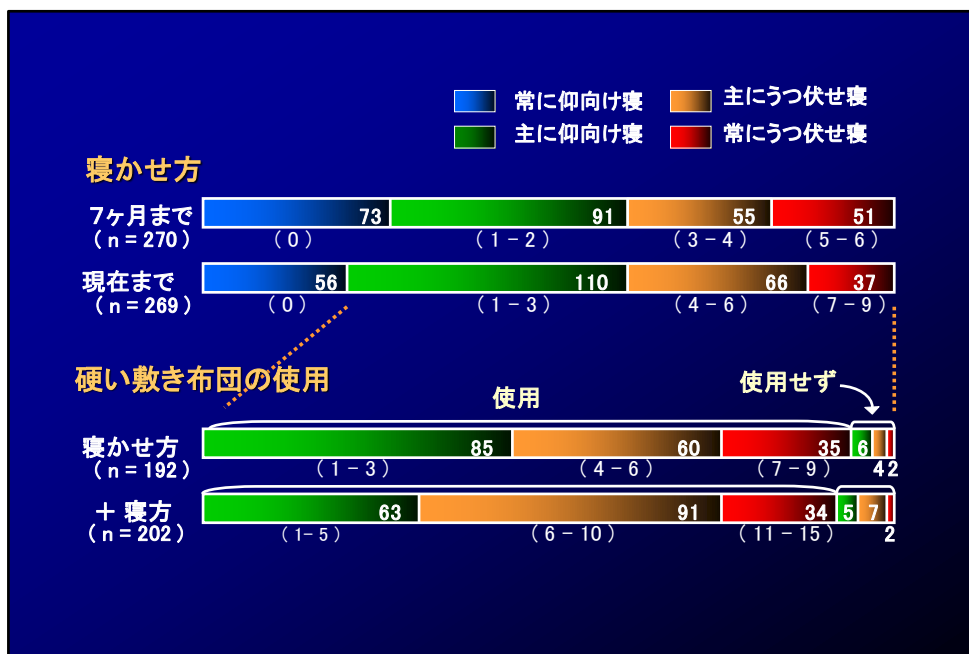
②退院後

③7ヶ月頃

④現在

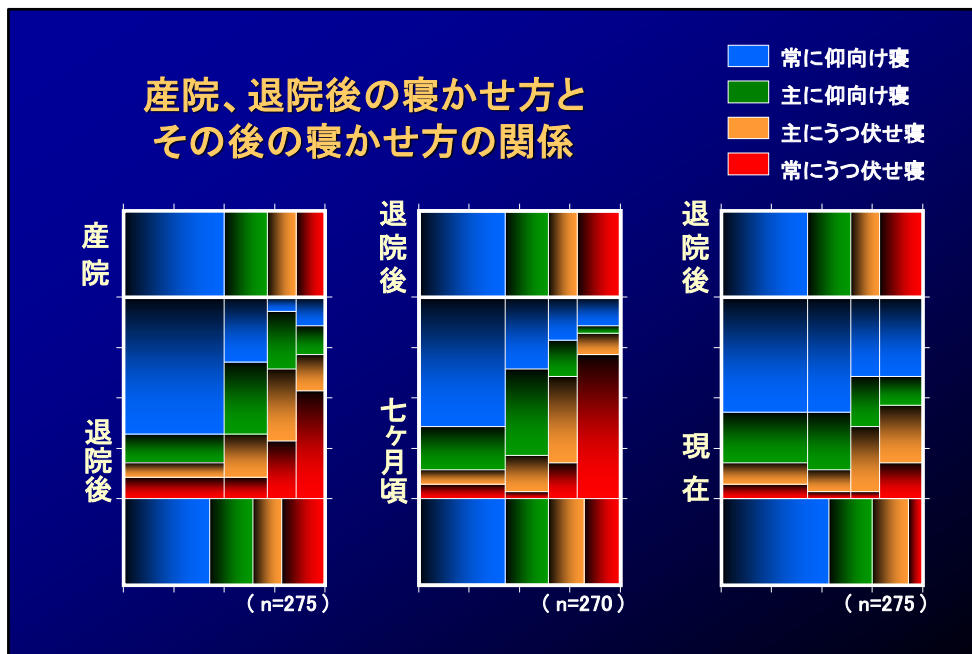
寝返りしての体位について
設問を別に設けた

産院、退院後、7ヶ月、現在の寝かせ方をそれぞれスライドの様な表現で聞きました。寝返りしての体位は別に聞いております。産院のを除きデータ処理の為にそれぞれ右の点数を与えました。



現在までにうつ伏せで寝かせた事のある人は実に80%いました。そのほとんどはSIDSの多い7ヶ月までにしていました。

☆この点数が先程の点数の2回分と3回分の合計点です。また、この中の12人はうつ伏せ寝の前提である 硬い敷布団を使用した事がなく、主にうつ伏せ寝にしていた人でも 6人は硬い敷き布団を使用していませんでした。☆これだけが寝返りしての体位を加味した統計であります。いつもいつもうつ伏せ寝だと満点で15点となります。少し人数が増えます。

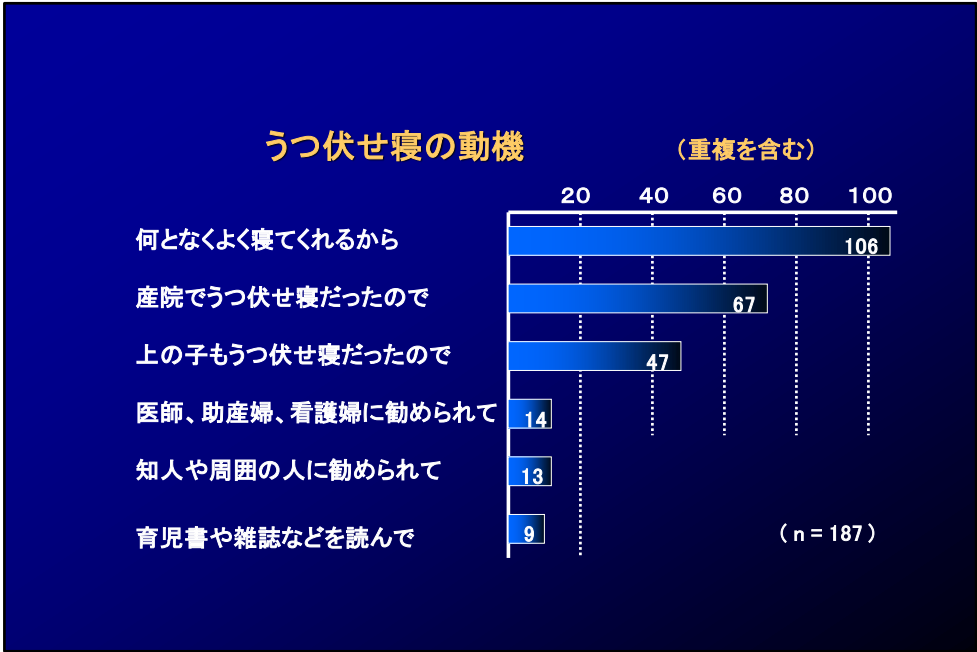


☆産院での寝方と退院後の寝かせ方を表しています。上の面が産院での寝かせ方。

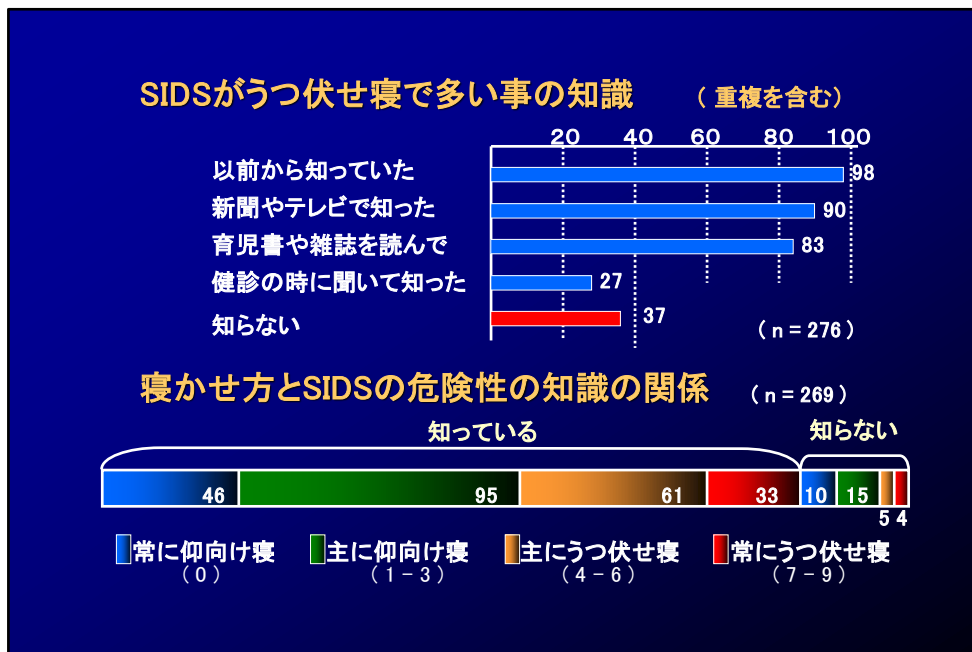
☆それが退院後にこの寝かせ方になり、これは退院後そののトータル。

☆これは退院後と7ヶ月頃の相関。

☆これは退院後と現在の相関です。ほとんどがカイ自乗検定で危険率0.005以下での有意差がありました。この産院での寝かせ方と退院後の寝かせ方が大きなひきがねになっていると思われました。



うつ伏せ寝にした理由であります。(1, 2, 3, ……………, 10)



大半の人がうつ伏せはSIDSの危険性がある事を知っていて、うつ伏せに寝かせた事のある人でも89%の人が知っていました。尤も調査内容の時期を過ぎてからのアンケートなので、その育児の時に危険性を認識していたかどうか迄は判りません。

この寝かせ方の問題や、先程のミルクの使い方の問題にしても、もっと我々医療サイド、保健サービスサイドからの啓蒙活動が必要であったと思われました。

なお、これらのデータは昨年1年間のアンケートですが、待合室に「フォローアップミルクの使用時期」と「うつ伏せ寝」のポスターを出した上でのアンケート結果であります。

以上、スライド有り難うございました。

演題32(2次抄録)

【目的】フォローアップミルク(以下FM)の使用とうつ伏せ寝の実態を把握し、育児指導に役立てる。

【対象および方法】平成9年当院に於いて、正常に発育している1才以上で2才健診迄の児を対象として、重複を避け、282名の母親から無記名でアンケートをとった。回答は選択形式とした。

【結果及び考案】FMは約66%の児に使用され、その約28%の児が生後9ヶ月未満で使用していた。6ヶ月未満で使用している児もいた。FMを使用している約60%の児が2回食の段階で開始していた。日本小児科学会の勧告から観ると、FMを使用している児の中で約63%に誤って使用されていた。体格、離乳食の進み具合等はFMの使用やその早期使用の誘因ではなかった。

うつ伏せ寝がSIDSの危険因子と言われてから久しい。産院、退院後、7ヶ月、現在の寝かせ方と寝てからの体位を聞いた。アンケート時までにうつ伏せにして寝かせた事のある児は約80%もいた。うつ伏せに寝ていた事のある児の約7%(14人)は硬い敷布団を使用した事がなかった。内9人は主にうつ伏せで寝ていた児であった。産院での寝方vs退院後の寝かせ方、退院後の寝かせ方vs7ヶ月及びアンケート時の寝かせ方は各々有意に相関し、産院での寝かせ方、退院後の寝かせ方がその後の寝かせ方に影響を与えていた。上の児の寝かせ方もその誘因であった。うつ伏せ寝はSIDSの危険因子である事を全体で約87%の人が調査時点では知っていた。

FMの使用や寝かせ方の問題等について、もっと啓蒙活動が必要であったと思われた。なお、待合室にFMの使用法とうつ伏せ寝について注意書きを大きく掲示してある上でのアンケート結果である。